

第1部 トークセッション

山形大学教授・安藤耕己氏のコーディネートのもと、新庄市内各地域で学校と地域の協働活動に取り組む3名のゲストが登壇。実践事例の紹介に加え、活動を通して見えてきた成果や課題や意識の変化について語られました。

事例紹介 01 松田 佳祐さん（本台海小学校 地域学校運営協議会委員、農家）



約10年前から、伝承野菜「畑なす」作りを子ども達と共に土づくりから行い実がなるまで、栽培の全てサポート。令和8年度をもって閉校となる八向地区で、自分達が苦勞して作った“地域の大切な味”を子ども達に覚えておいて欲しい、また、地域を離れても「畑なす」を通じた体験と味を原風景として思い出すことで、故郷を思い出すきっかけになればとの想いで活動を続けています。

（安藤先生のコメント）

小中学校の統廃合により、地域の伝承が学校を代表するものとして、子ども達への働きかけや継承が途絶えていくという課題が出てきます。今後、どのように解決していくか、みんなで考えていくことが必要だと思います。

事例紹介 02 大野 高子さん（日新小学校 学校支援スタッフ、日新中学校 読み聞かせサークル「柊」）



読み聞かせサークルから学校に関わるようになり、学校の先生から聞く困りごと聞き、“これなら私にも出来るかも”ということが徐々に増えていきました。調理実習等の学習支援や、お抹茶の提供、着物の着付けなど。活動を通じて、子ども達の笑顔に触れ、先生達からの感謝の言葉から、私自身が元気や生きがいを感じています。退職しても声をかけてもらえる居場所があるということは、ありがたいと思っています。

（安藤先生のコメント）

“子ども達が待っててくれる”ということや、“必要とされている”と感じられること、また、日々の刺激がモチベーションとなり、活動を続けていけるのだと思います。

事例紹介 03 高橋 昭一さん（新庄小学校 校長 ※令和7年度交流会開催時）



近年、子どもの数が減少し、子ども達の人間関係が内向きに目が向いていると感じ、何とか外に目を向けさせてあげたいという気持ちがありました。また、新庄小学校は地域の学校であるという思いから、交流スペース「あじさいルーム」を立ち上げ、学習支援や遊び等を実施。地域の方々を支えていただき模索しながら、様々な活動を行っています。

（安藤先生のコメント）

「あじさいルーム」がいい意味で宙ぶらりんだなと思います。フォーマルな教育の現場に、ノンフォーマルな取り組みが入っていくという匙加減がとても難しいのです。取り組みにどんな風に価値づけをし、そこに地域の方や、先生方、ともに理解を深めていくことが大切だと感じています。

【安藤先生から結びに】

様々な立場から、お話をいただきました。誰かに負担がかかるのではなく、だけでも地域の方と学校と一緒に手を組むことで学校だけではできないこと。あるいは、地域の方が学校の外から眺めているだけでは出来ないことを上手くすり合わせ、手を組んでいくこと。それぞれの地域の可能性を探りながら、共有して、それぞれの現場で意見を交わしながら、実践に繋げていただければと思います。

活動の事例から安藤氏との対話を通して、活動を進めるうえでの重要な視点や工夫が浮かび上がり、参加者にとって多くの気づきを得られる時間となりました。



八向学校の統合に どうなる！？

必要

- ・子どもと放課後をつなぎたい
- ・子ども達の安心安全の担保
- ・子どもの居場所づくり

これならできるかも！

- ◎子ども達と関わる大人を増やす
- ◎学校統合後の全体の方向性が必要

新庄学区と八向学区との 連携に不安

そうだ！まずは地区内のお店で懇親会から、親睦を深めよう！

乾杯からはじめる コミュニケーション！

- ・家庭に子どもがいない地域の人は学校と関わりづらい
- ・手助け出来ることがあっても、学校からなかなか情報が得られない
- ・子ども会がなくなったことで地域との関わりが薄くなった気がする
- ・ただただ、子ども達や地域の人との話相手になることも必要！

課題が いっぱい

- ◎地域と学校の情報ツールの整備
- ◎それぞれが出来ることを気楽にトライ



求む！ 地域学習の人材

「家庭科等の技術的な専門知識がある人がいると助かる！」

「学区外でも良い人材が紹介できる環境作りで繋がりを増やしたい！」

第2部 意見交換会

意見交換会では参加者32名が6つのグループに分かれ、「みんなで考える地域と学校のこれから」をテーマに意見交換を行いました。学校や地域が抱える課題や今後取り組んでみたい活動などについて活発な意見が交わされ、「これならできそうだ」「ぜひ実践してみたい」といった具体的なアイデアも多く生まれ、令和8年度の活動に向けたヒントを得る機会となりました。

先生の愚痴は 誰が聞くの？

- ・学習サポートが必要（学校の人手不足）
- ・先生のグチ聞き役が必要
- ・地域の専門知識が話せる人が欲しい
- ・先生にとっての「あじさいルーム」を作る
- ・最上地域全体での交流を増やす



大学生は給食が 恋しくなる！

- ・給食を食べる代わりに大学生に学習サポートをしてもらおう！
- ・正直、日々の畑に手が回らない！農林大学校の学生に学校の畑を手伝ってもらいたい！

まずは関わることから始める

メロンの 活用

（明倫学園のサロン）

イベント化できそうなものがある！昔語り等で地域の人を呼び込もう！

学校も地域も

結局は ヒト対ヒト

心の距離がうまく連携できない要素では？
地域のホンネ → 学校は敷居が高い
学校のホンネ → 面倒が増えるのは困る

- ◎学校内にフラットに話せる場が必要
- ◎大人同士が繋がることで子ども達へ還元できることが増える

